

戸別収集の効果と経費

1 品川区での取り組み

清掃事業の区移管直後の平成12年5月から繁華街での早朝収集（7:30に3台が出庫）を開始した。その際、早朝収集地区では基本的に戸別収集とし、常時ごみが出される集積所が廃止されカラス被害軽減・美観向上の効果が見られた。

早朝収集地区での効果を踏まえ、戸別収集拡大の可能性・課題を確認するため、13年9月から3か月間、約2,700世帯で戸別収集モデル事業を実施した。その結果、カラス被害軽減・美観向上とともに、6～8%のごみ減量効果が見られた。

モデル事業の結果を踏まえ、作業の効率化と既存事業の見直しにより総人員を抑制することを前提として、14年度から本格拡大実施することとした。

【戸別収集の実施状況】

平成13年度	約2,700世帯	(3か月間のモデル)
平成14年度	約6,700世帯	(本格拡大実施)
平成15年度	約36,700世帯	(累計約43,400世帯)
平成16年度	約68,200世帯	(累計約111,600世帯)
平成17年度	約62,400世帯	(累計約174,000世帯 = 全世帯)

2 戸別収集によるごみ減量効果

戸別収集によるごみ量の減量効果を計るため、品川区と品川区を除く22区の人口およびごみ量について、13年度、18年度およびその増加率を表1のとおりまとめた。

品川区の人口は、13年度比5.4%増で22区平均より1.5%高かった。一方、ごみ量は、13年度比8.7%減となり、22区平均より1.3%低かった。

また、参考ではあるが、人口が増加しなかった場合のごみ量を推計したところ、品川区の推計ごみ量は、13年度比13.4%減となり22区平均より2.5%低かった。

以上より、戸別収集によるごみ減量効果は、1.3%～2.5%程度とみられる。

【表1:人口およびごみ量の増減】

区名	人口(人)			ごみ量(t)			<参考>人口が増加しなかった場合の推計ごみ量(t)		
	13年度	18年度	増加率(%)	13年度	18年度	増加率(%)	13年度	18年度	増加率(%)
品川区	329,939	347,841	5.4	90,184	82,336	8.7	90,184	78,118	13.4
品川区を除く22区	7,960,572	8,268,388	3.9	2,231,699	2,065,787	7.4	2,231,699	1,988,245	10.9

人口は、各年度の10月1日現在。

ごみ量は、区収集のうち可燃と不燃の合計。

3 戸別収集による収集台数の増減

品川区では、ごみ量が8.7%減量（18年度対13年度比）したが、戸別収集実施に伴い収集箇所が増え、従来より収集時間が倍近くかかるようになった。

そこで、本格拡大実施の翌年度となる15年度から全世帯実施となる17年度まで計15台増車した。18年度は、これまでの間、収集職員が戸別収集現場で十分な経験を積んだことおよび戸別収集拡大に伴う住民説明がなくなったことにより、作業能率を上げて5台の減車を行った。結果、戸別収集による収集台数は、10台の増車（23.8%増）となった。

【表2：品川区の作業計画による収集台数の増減】

車種(積載量)	台数						18年度対13年度比	
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	増減(台)	増減率(%)
小ブ(1.6t)	33	33	38	43	49	44	11	33.3
新大(2.4t)	4	4	4	4	3	3	1	25.0
小特(0.9t)	5	5	5	5	5	5	0	0.0
計	42	42	47	52	57	52	10	23.8

小ブ：小型プレス車

新大：新大型特殊車

小特：小型特殊車

